

(5) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

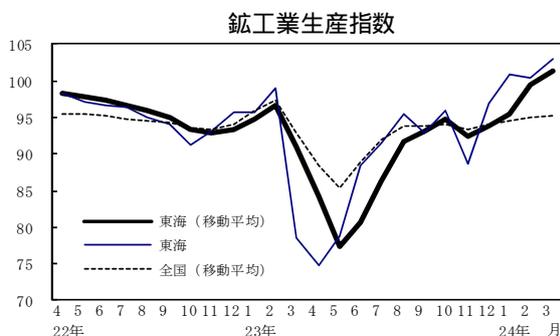
前回調査からの主要変更点

	前回（平成24年2月）	今回（平成24年5月）	
景況判断	持ち直し	緩やかに回復	
鉱工業生産	持ち直し	増加	
個人消費	持ち直しの動き	緩やかに増加	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	持ち直し	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

輸送機械は、東日本大震災やタイの洪水被害からの挽回生産、新車投入効果、自動車購入支援策等により大幅に増加した。一般機械は、中国・欧州向けに弱い動きがみられるものの、国内向けが下支えしていること等から増加した。電子部品・デバイス、スマートフォン向けが堅調に推移したこと等から増加した。プラスチック製品は、主力の工業用製品が自動車業界の挽回生産や好調な自動車販売等を受けて増加したことから、増加した。化学は、医薬品の生産減少が寄与して減少した。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

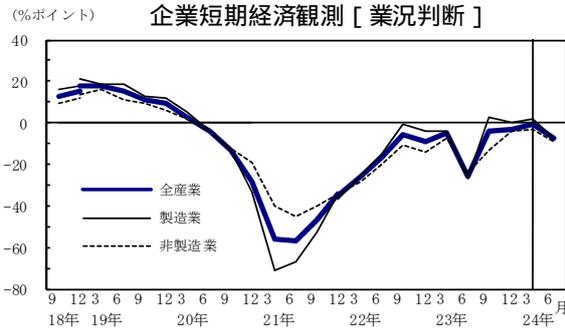
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	37.5	5.6	12.6	11.2	102.2
一般機械	12.7	▲1.8	0.6	▲1.6	3.3
電子部品・デバイス	6.8	0.9	10.1	▲2.1	41.0
プラスチック製品	5.4	2.5	8.0	8.5	▲0.9
化学	5.0	0.4	▲5.8	▲4.7	▲1.4
鉱工業	100.0	0.6	8.1	6.3	9.6

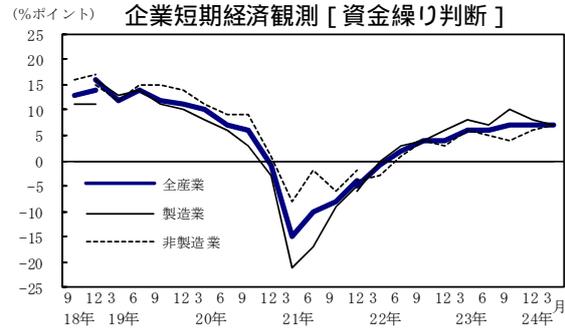
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

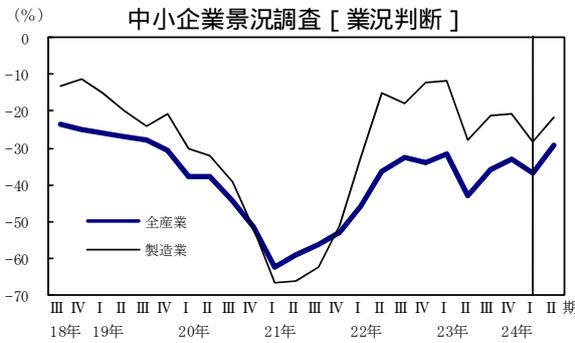
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。24年II期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

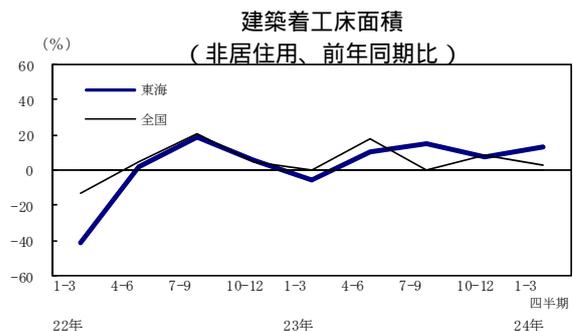
「夏向けの食品用段ボールケースの受注量は、前年よりも好調である。夏に向けて先に製品を作りだめする傾向が、今年からあるとのことである(紙加工品[段ボール]製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度計画
全産業	7.5 (8.9)	5.1
製造業	9.8 (13.2)	0.2
非製造業	5.5 (5.4)	9.4

(備考) 1. ()は前回(12月)調査結果。
2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

大型小売店販売額

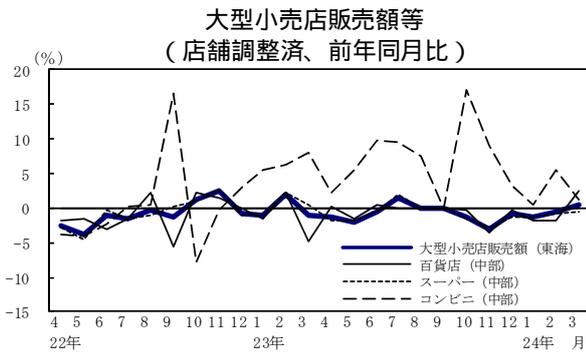
大型小売店販売額は、前年同期比で0.5%減、前期比で0.3%増となった。

百貨店は、1月は、気温低下で春物衣料が振るわなかったこと等から前年比低下幅が拡大した。2月も、気温低下で冬物衣料が振るわなかったが、バレンタイン商戦が好調だったこと等もあり、前年比低下幅は横ばいとなった。3月は、店舗改装効果や新ブランドの導入効果等から前年を上回った。

スーパーは、東日本大震災による影響の反動減や家電エコポイントの駆け込み需要の反動減等があったものの、機能性衣料に動きが見られたこと等から、前年比低下幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

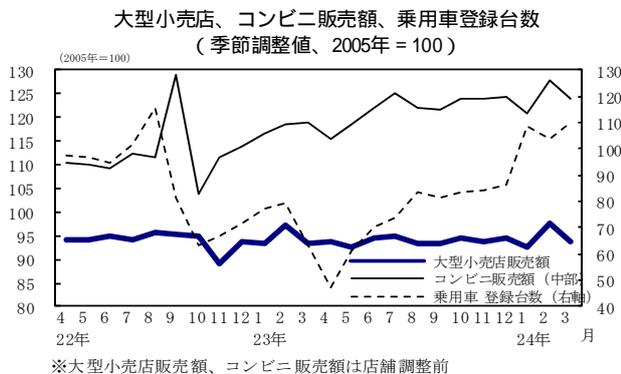
「低価格のファストファッションブランドがオープンしたが、客は目的のブランドのみを購入し、他のフロアの買い回りは見られない。相変わらず目的の商品のみ購入する傾向が続いている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	▲1.3	▲0.9	▲1.6	▲0.5
百貨店(*1)	▲0.3	▲0.7	▲1.3	▲0.3
スーパー(*1)	▲1.4	▲1.2	▲1.9	▲0.9
大型小売店(*2)	▲1.5	▲1.5	▲0.9	0.2
(季節調整値)(*3)	(▲1.0)	(0.3)	(0.4)	(0.3)
乗用車(*4)	▲36.9	▲18.2	26.1	48.5
(季節調整値)(*4)	(▲19.1)	(33.5)	(6.7)	(27.0)

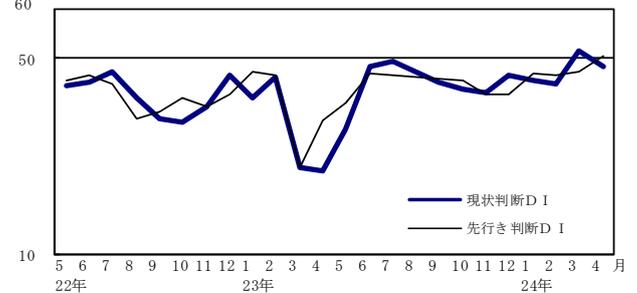
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)。百貨店、スーパーは中部
2. 店舗調整前、前年同期比(%)
3. 店舗調整前、前期比(%)
4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



※大型小売店販売額、コンビニ販売額は店舗調整前

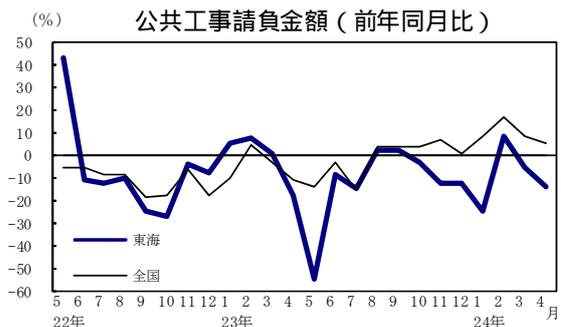
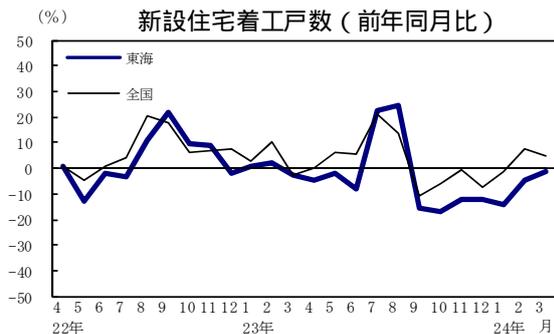
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから全体では減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

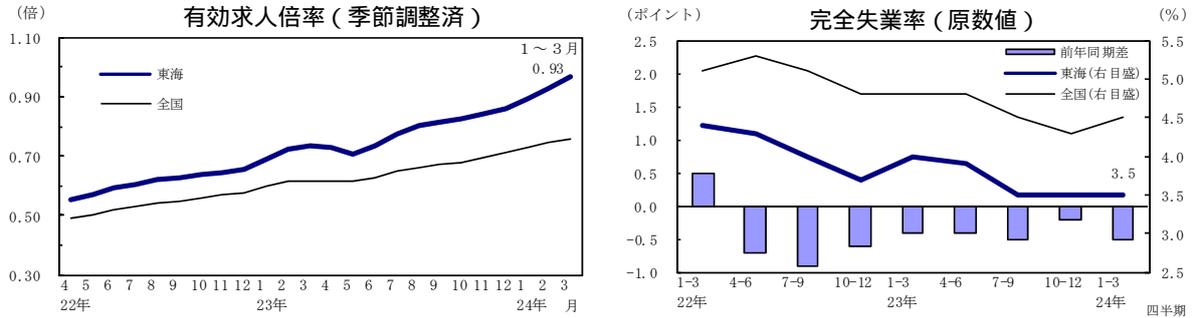


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

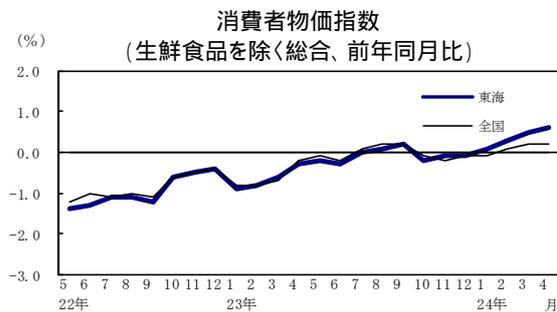
「食品製造の事業所からの設備投資に伴う新規求人や、自動車産業でばん回生産が終了した後の生産受注も引き続きエコカー補助金等の影響から生産受注が2割増となり、下請事業所からの求人も多く出されているが、内容は依然としてパート、有期雇用等の求人が多くなっている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数 (前年比)	410 25.4	310 ▲7.2	343 1.5	361 ▲14.9	116 ▲5.7
負債総額 (前年比)	1,133 93.9	585 ▲40.1	1,006 79.7	679 ▲15.9	432 ▲24.6



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 来客数、客単価共に、前年比がかなりの回復を見せている。これは前年の東日本大震災による自粛ムードの反動もあるが、前々年比でも、若干の増加、上昇となっている(高級レストラン)。

<先行き>

- ・ ボーナス商戦が始まる時期であるが、今年の夏のボーナスはマイナス傾向と報じられており、特に製造業がメインの地域なので、影響が出そうである(百貨店)。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

